

特集

# この本と私



## 「最後の授業」

「ぼくの命があるうちに」

ランディ・パウシュ & ジェフリー・ザスロー 著

余命6ヶ月と宣告された大学教授の「最後の授業」の講義録です。講義の映像はインターネット上で見ることができます。

講義をする筆者はとても元気でエネルギーが溢れています。冒頭には、舞台上で腕立て伏せをしてみせます。そして一言、「これができない人は僕を哀れまないでください」この言葉は衝撃的でした。余命6ヶ月と宣告された人を目の前にして勝手に悲しむことは簡単です。しかし、その思いは何も生み出さず、今を楽しく生きている本人や家族にとっては迷惑でしか無いことを、見事に言い表しています。

映像の中で、聴衆は講義を真剣に聴き、楽しみ、大いに笑っていました。書籍では、ガンと宣告されてから12ヶ月、筆者が、生き続けるためにありとあらゆる手段を試し、しながらガンが転移し、完治する見込みが無い事を受け入れていった経緯が書かれています。おそらく、「最後の授業」の受講者の多くが筆者の友人であり、筆者と家族のガン治療の経緯を知っているのだと思います。その上で、講義を楽しみながら聴くという成熟した大人の世界がそこにはありました。「どんな結果を知らされても、その瞬間に僕が死ぬわけではない」この言葉の重みを感じました。

達紀



ランダムハウス講談社刊

矢野野薫 訳

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株)ファッションビジネス・御堂筋新聞